

生命保険の見直しで 堅実なライフプランを提案

—住宅ローン返済と教育・老後資金準備を同時に実現するために—

日銀による量的緩和の解除の発表を受け、住宅ローン金利が上がるという予測のもとに住宅購入の動きが活発になっている。住宅ローンを抱えると、家計の収支を見直す必要が生じ、必要な保障が大きく変化する場合もある。住宅ローン・生命保険の2大支出を中心に、ライフプランの構築事例を紹介する。

顧客プロフィール

神山博正◎47歳 会社員
恭子◎42歳 主婦 3年前、出産を機に主婦業に専念
大輔◎3歳

Money Date

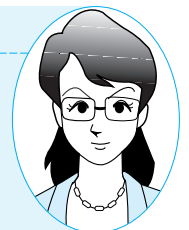
- ◎収入 年950万円
- ◎資産
 - 有価証券 約1,000万円 (時価)
 - 財形貯蓄 336万円 (子供の教育資金用)
 - 財形年金 50万円
 - 定期預金 2,000万円 妻名義 1,000万円
 - 普通預金 300万円 妻名義 200万円
- ※定期預金のうち、1,700万円は土地購入のための代金として支出。
- ◎生命保険/夫 (結婚を機に加入)
 - 一時払終身保険 300万円
 - 定期保険特約付終身保険/40歳時加入
 - 月払保険料 約13,000円 (一部頭金50万円)
 - 更新後予想保険料 約26,000円
 - 主契約300万円・終身払 (一部頭金)
 - 定期保険特約1,200万円・10年更新型 (一部頭金)
 - 以下、特約はすべて10年更新型
 - 特定疾病定期保険特約500万円/入院保障特約120日型 (4日免責) 5,000円/成人病入院特約120日型 (4日免責) 5,000円/長期入院特約 (125日以上の入院) 5,000円/通院特約3,000円/疾病障害特約1,000万円
- ◎生命保険/妻 (出産後に加入)
 - 一時払終身保険 300万円
 - 定期保険/40歳時加入
 - 月払保険料 約12,000円
 - 主契約2,700万円・10年/入院保障特約120日型 (1日目から) 5,000円/女性疾病入院120日型 (1日目から) 5,000円/通院特約3,000円
- ◎生命保険/夫婦共通
 - こくみん共済総合2倍タイプ/月掛金 7,200円 (夫婦合算)/病気死亡 800万円、入院日額10,000円 他
 - こくみん共済医療タイプ/月掛金 3,200円 (夫婦合算)/入院日額 6,000円
 - がん保険/月払保険料 4,500円 (夫婦合算)/入院10,000円、診断給付金 100万円
- ◎生命保険/子
 - 県民共済 こども型 月掛金 1,000円



今月のFP

浅野妙子◎45歳

税理士事務所に勤務しつつ、CFPの資格を取得。税理士の理解を得て、FP事業部を立ち上げ、責任者となった。企業保険の提案が主な業務だったが、最近は個人顧客も少しずつ増えている。



相談内容

このところ、浅野が所属するFP事業部では、住宅ローン関係の相談件数が増加中だ。今後の金利動向を気にしていることと思われるが、相談者は、当初は住宅ローンのみについて考えているが、次第にライフプラン全体の相談に発展していくのが一般的だ。なかでも生命保険料の支出は重要項目で、見直しの結果家計の収支改善が実現し、ひいてはローン返済が楽になり、喜ばれる例が多い。

今日も神山という40歳代の夫婦とのアポイントがあり、今年中に一戸建て住宅を建築する予定だという。今後の指標として安心できるライフプランを作っておきたいため、ローン返済と教育資金準備の計画と共に、生命保険の見直しアドバイスを求めている。

ただ、神山夫妻には特別な事情があるのだという。それは、夫の年齢が47歳で、子供がまだ3歳になったばかりということ。定年退職が65歳としても、子供はやっと大学を卒業するかしないかという年頃だ。つまり、ローン返済と教育資金、老後の生活資金準備を同時に行わねばならないのだ。

それぞれの家庭事情により、結婚が遅い、すぐに子供ができないというケースは「特別な事情」というほどではないが、神山夫妻にとっては、不安は当然のことと言える。

内容を確認する

神山は会社員だが、休暇を取って夫婦で浅野の事務所にやってきた。子供は保育園に預けてきたそうだ。神山は「銀行に住宅ローンの説明を受けに行くので、今日はいろいろと用件を済ませておこうと思います」と屈託がない。

「それでは、すでに具体的なお話はすすんでいらっしゃるのですね」と確認すると神山はうなずき、さっそく資料を提示してくれた。

「すでに土地の購入手続きは完了しています。7月に着工、11月に完成予定で、住宅メーカーもすでに決まっています。建築費の見積りもできました」とのことだ。

相談内容としては、当初説明があった通り、子供が経済的に独立する前に定年を迎える予定なので、教育資金の準備

と住宅ローンの返済を同時に行っても大丈夫だとの確信がほしいそうだ。さらに加入している生命保険についても、金額的に不足しているように思うので、ぜひ見直しのアドバイスが欲しいという。

「今のままでも十分やっていけると私は思うのですが、家内がゴルフをやめろというのです。それは勘弁してほしいのですよね。つまりゴルフをやめなくてもローンは返せるということを証明したい、というのが今回相談した主目的なのです」

神山がそう言って笑うと、妻の恭子は「だって毎月のお小遣いとして9万円くらい使うのですよ。節約をしようと思ったらそのくらいしか考えられないでしょう。そうすよね？」と浅野に同意を求めてきた。

浅野は「一方的にご主人の味方をするつもりはありませんが、私としては、無理に節約をしてストレスを重ねるよりは、楽しみも享受できるプラン作りを心がけます」と答えた。神山は満足そうに腕を組んでうなずいた。

神山の話によると、住居は賃貸のままで良いと考えていたが、子供が誕生して考えが変わり、2年ほど前から計画を練っていたという。そして、最近になって現在の住まいの近辺で良い物件をみつけたので、購入に踏み切ることにした。

「子供ができたのはとても嬉しかったし、家を建てる計画も楽しいのですが、その分責任が重くなりますよね。特に年齢のことを考えると、この先本当に大丈夫だろうかという不安を感じます」

「不安」というものは漠然としているから不安なのであって、具体的な問題点として明確にしまえばそれは「不安」ではなくなる。そして、問題点はひとつひとつ解決していけば良いのだということを浅野は説明した。

「なるほど。今後は計画的に収入と支出の管理をすれば良いということですね。でも、そんなことできるかな」

「少しいい加減に聞こえるかもしれませんが、神山さんの場合はとにかく住宅ローンが返せる、ということをやまずはっきりさせれば良いと思います」

その上でゆとりが生じれば、少しは無駄な部分があっても良いと浅野は思っている。ただし、そのためには、基本となる部分をしっかりしておく必要があるため、状況の把握は十分に行うことが何より重要だ。